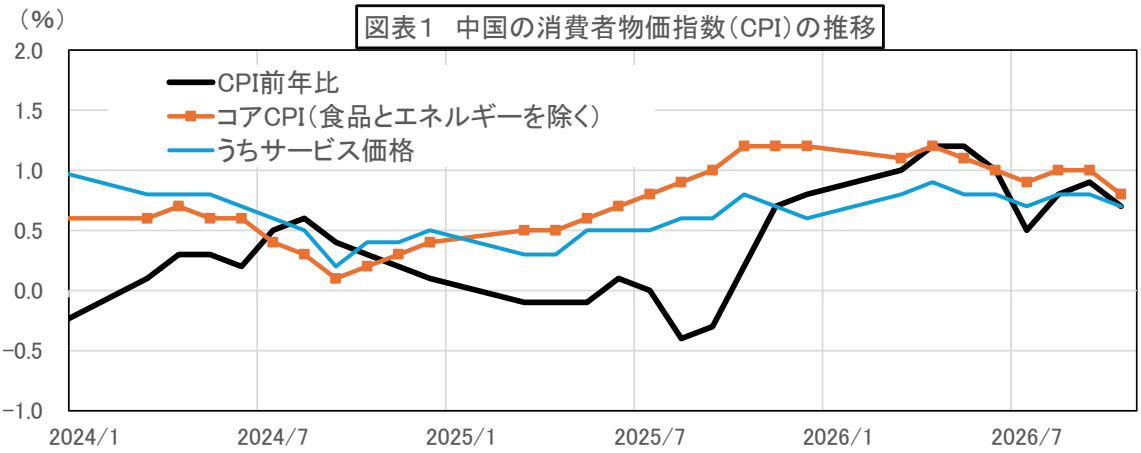


リサーチ＆ソリューション第１部　王 雷軒

（中国）内需の弱さを背景に低位で推移する消費者物価と、海外要因で高止まりする生産者物価

中国国家統計局が 11 月 9 日に発表した 10 月の消費者物価指数（CPI）は前月比 0.0%、前年比 0.7%と、9 月（同 0.2%、同 0.9%）からいずれも鈍化した（図表 1）。前年比では 12 か月連続のプラスとなったものの、引き続き政府目標である前年比 2%前後を下回る状況が続いている。また、価格変動の激しい食品とエネルギーを除いたコア CPI も前月比 0.0%、前年比 0.8%となり、低位にとどまっている状況に変わりはない。

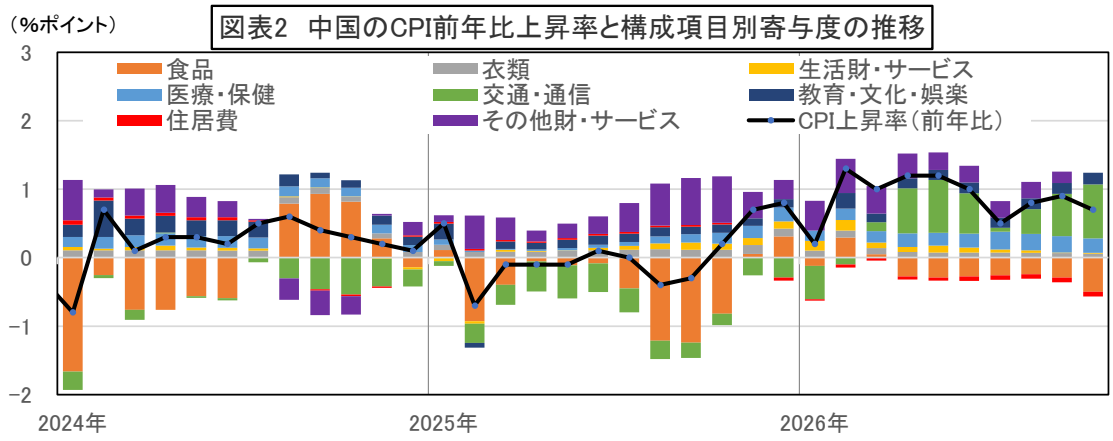
図表１　中国の消費者物価指数（CPI）の推移



（資料）中国国家統計局、Windより作成、直近は2026年10月。

10 月の CPI 前年比上昇率（前掲 0.7%）の構成項目別寄与度をみると、「交通・通信」（0.79 ポイント）、「医療・保健」（同 0.21）、「教育・文化・娯楽」（同 0.17）がプラス寄与した一方、「食品」（同▲0.50）と「住居費」（同▲0.07）は依然として押し下げ要因となっている（図表 2）。

図表2　中国のCPI前年比上昇率と構成項目別寄与度の推移



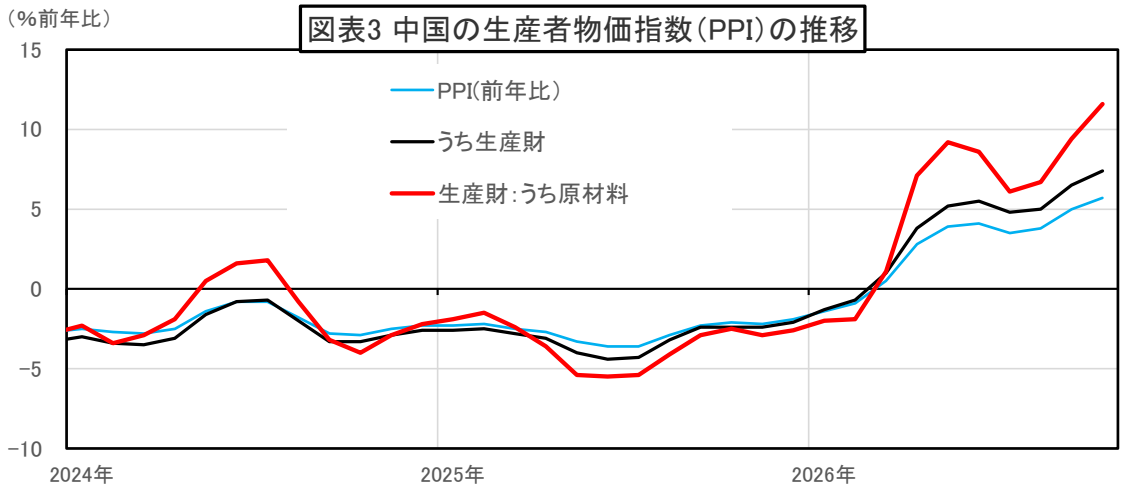
（資料）中国国家統計局、Windより作成、直近は2026年10月。

ここに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます　https://www.nochuri.co.jp/

「交通・通信」のうち、エネルギー価格は前年比 9.9%と、8 月（同 4.1%）、9 月（同 7.3%）から引き続き上昇しており、特にガソリン価格は前年比 22.4%と、8 月（同 9.3%）、9 月（同 16.6%）から一段と大幅に上昇し、CPI 前年比上昇率を 0.63 ポイント押し上げた。また、国慶節休暇（10 月 1 日～7 日）に伴う旅行需要の増加を背景に、サービス価格は前年比 0.7%となり、CPI 上昇率を 0.34 ポイント押し上げた。加えて、データ記憶装置（前年比 45.4%）、タブレット端末（同 29.3%）、コンピューター（同 23.0%）、スマートフォン（同 16.7%）などの価格上昇も、CPI 上昇率を 0.26 ポイント押し上げる要因となった。

他方、食品価格は CPI を押し下げる最大の要因となったが、特に生鮮野菜（同▲16.9%）、豚肉（同▲8.6%）、果実（同▲3.8%）はこれら 3 品目で CPI 前年比上昇率を 0.54 ポイント押し下げた。また、雇用・所得環境の厳しい状況が依然として続くなか、自動車（同▲1.9%）や家電製品（同▲2.2%）など耐久消費財の価格は引き続き低位で推移している。

先行きについても、中東情勢などの地政学リスクによるエネルギー価格への影響が依然として続くとみられるものの、中国内需の大幅な改善が見込みにくいなか、11 月の CPI 上昇率は前月比でマイナスに転じ、前年比では 0.6%へ鈍化すると予想される。



（資料）中国国家統計局、Windより作成、直近は26年10月。

他方、10 月の生産者物価指数（PPI）は前年比 5.7%と、8 月（同 3.8%）、9 月（同 5.0%）からさらに加速した（図表 4）。2022 年 7 月以来の高水準を記録し、8 か月連続の前年比プラスとなり、市場予想（前年比 5.3%前後）を上回った。主な要因は原油価格の上昇である。中東情勢の緊迫化を背景に国際原油価格が上昇し、中国国内でも石油・天然ガス採掘業や化学工業の価格が大幅に上昇した。加えて、AI 投資ブームによる銅などの非鉄金属価格や半導体関連価格の上昇も継続した。さらに内需拡大策によって鋼材、セメントなどの価格も持ち直しつつある。

先行きについては、公共事業の加速を背景に、建設資材価格の下落幅が一段と縮小すると予想されるほか、石炭・天然ガス需要の増加も押し上げ要因となる。一方で国際原油価格と半導体関連価格の上昇ペースが鈍化する可能性があり、11 月の PPI 上昇率は前月比でマイナスに転じ、前年比では 5.1%へ鈍化すると見込まれる。

以上を踏まえると、PPI と CPI の前年比上昇率の差は 5 ポイントまで拡大している。企業のコスト上昇は、需要不足を背景として最終消費価格に十分転嫁されておらず、中国経済では需要の弱さと供給コストの上昇が併存する状況が続いている。その結果、企業収益の圧迫要因となっており、企業の経営環境は引き続き厳しい状況にあるとみられる。

ここに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます https://www.nochuri.co.jp/